

平成27年度 芸術科 音楽 I シラバス

科目	単位	履修学年	区分	教科書(出版社)
音楽 I	2	1年	1年全クラス	MOUSA 1(教育芸術社)

1 「音楽 I」の目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2 授業の内容

【表現】表現に関して、次の事項を指導する。

(1) 歌唱

ア 曲種に応じた発声の工夫 イ 視唱力の伸長 ウ 歌詞及び曲想の把握と表現の工夫 エ 合唱における表現の工夫

(2) 器楽

ア いろいろな楽器の体験と奏法の工夫 イ 視奏力の伸長 ウ 曲の構成及び曲想の把握と表現の工夫 エ 合奏における表現の工夫

(3) 創作

ア 音楽の組立て方の工夫 イ いろいろな音楽材を生かした表現

【鑑賞】鑑賞に関して、次の事項を指導する。

ア 声や楽器の特性と表現上の効果 イ 楽曲の歴史的背景 ウ 我が国の伝統音楽の種類と特徴 エ 世界の諸民族の音楽の種類と特徴

3 授業方法・形態

一斉授業(2時間連続)、講義、実技(一斉、グループ)、発表を中心とする。教科書を用いながら、適宜、副教材等を取り入れ、生徒の理解を促す。

4 評価の観点

a 音楽への関心・意欲・態度	音楽を愛好し、音楽文化を尊重する態度を身に付け、音や音楽に対する興味・関心を高め、個性豊かで創造的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。
b 音楽表現の創意工夫	感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽の良さや美しさを感じ取り、個性豊かで創造的な音楽活動の工夫をする。
c 音楽表現の技能	自己のイメージを持ち、個性豊かに充実した創造的な表現をするための技能を身に付けている。
d 鑑賞の能力	多様な音楽や音楽文化に対する総合的な理解を深め、その良さや美しさを個性豊かに味わう。

5 年間指導計画

月	時数	題材名	題材のわらい	主な教材	主な指導内容
4	10	正しい発声法を身につけよう	姿勢や呼吸法、発声法に気をつけて、楽曲の特徴を感じ取り、イメージをもって歌う。	校歌/アヴェマリア/少年時代/花 他	・姿勢や身体の使い方、呼吸法、共鳴の様子など ・曲想と歌詞の内容との関わり ・声の音色や強弱、旋律の特徴などを活かした表現
5	10	ポディー・パーカッションやリズムを楽しもう	ポディー・パーカッションで様々なリズムの表現活動を行い、その経験を生かしながら音楽を作ることの喜びを味わう。	ソルフェージュリズム編	・リズムの読譜や記譜の方法 ・ポディー・パーカッションによるリズム・アンサンブル
6	6	ミュージカルナンバーを歌おう	あらすじや物語の背景、歌詞の内容、登場人物の心情などを理解し、楽曲にふさわしい表現をする。	あえない日々/Memry/Oh Happy Day/DVD鑑賞	・歌詞の内容や楽曲の背景と曲想とのかわり ・楽曲に対するイメージをもつことと表現の工夫 ・ミュージカルや映画などを鑑賞し、音楽の多様性を理解して、その良さを味わう
6	6	表現を工夫しながら重唱や合唱をしよう	重唱や合唱などにおける、自分の役割を意識しながら、表現を工夫してアンサンブルの喜びを味わう。	故郷/願い 他	・各声部のかかわりや、音の重なり、全体の調和 ・楽曲にふさわしい表現の工夫
7 9	14	三線に挑戦しよう	楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏する。また、歌いながら弾けるようにする。	安波節/安里屋ユンタ	・三線の音色や奏法の特徴 ・三線の弾き歌い
11 12	16	音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取ろう	様々な楽器によって生み出される響きを感じるとともに、文化的・歴史的背景や作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解する。	ポレロ/交響曲第9番<合唱付き>/春の祭典 他	・声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわり ・音楽を形作っている要素の知覚とそれらの動きの感受 ・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家及び演奏者による表現の特徴
1 2 3	8	日本の伝統音楽やオペラを鑑賞しよう まとめと反省	文化的・歴史的背景など総合的に特徴を理解する。また、我が国の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解する。	舞楽/能(石橋)/歌舞伎/オペラ 他	・日本とヨーロッパの総合芸術における表現の特徴と、それらの共通点 ・声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわり

6 評価方法

定期考査、実技テスト(演奏発表)、授業態度、課題提出物等を総合的に判断して行う。

評価の観点	評価方法
a 音楽への関心・意欲・態度	◇聞く(聴く)態度 ◇学習意欲(発言・積極性) ◇提出物・課題 ■定期考査(筆記試験)
b 音楽表現の工夫	◇学習活動の様子 ◇提出物(ワークシート、自己評価表) ■実技試験(独唱、独奏)
c 音楽表現の技能	◇表現活動(メロディー感・ハーモニー感・リズム その他)
d 鑑賞の能力	◇提出物(ワークシート、感想文)

平成27年度 芸術科 音楽Ⅱ シラバス

科目	単位	履修学年	区分	教科書(出版社)
音楽Ⅱ	2	2年	2年選択	MOUSA 2(教育芸術社)

1 「音楽Ⅱ」の目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2 授業の内容

[表現] 表現に関して、次の事項を指導する。

(1) 歌唱

ア 声域の格調と曲種に応じた豊かな発声 イ 視唱力の充実 ウ 歌詞及び曲想の理解と個性豊かな表現
エ 重唱・合唱における豊かな表現

(2) 器楽

ア 楽器に応じた奏法の習熟 イ 視奏力の充実 ウ 曲の構成及び曲想の把握と個性豊かな表現 エ 重奏・合奏における豊かな表現

(3) 創作

ア 楽器の特性を生かした楽曲の表現 イ 音楽を形作っている要素とそれらの働きを理解して、音楽を作ること

[鑑賞] 鑑賞に関して、次の事項を指導する。

ア 楽曲の構造 イ 音楽の歴史的背景 ウ 文化的背景に基づく我が国の伝統音楽の特徴
エ 文化的背景に基づく世界の諸民族の音楽の特徴

3 授業方法・形態

一斉授業(2時間連続)、講義、実技(一斉、グループ)、発表を中心とする。教科書を用いながら、適宜副教材等を取り入れ、生徒の理解力、表現力を伸ばしていく。

4 評価の観点

a 音楽への関心・意欲・態度	音楽を愛好し、音楽文化を尊重する態度を身に付け、音や音楽に対する興味・関心を高め、個性豊かで創造的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。
b 音楽表現の創意工夫	感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽の良さや美しさを感じ取り、個性豊かで創造的な音楽活動の工夫をする。
c 音楽表現の技能	自己のイメージを持ち、個性豊かに充実した創造的な表現をするための技能を身に付けている。
d 鑑賞の能力	多様な音楽や音楽文化に対する総合的な理解を深め、その良さや美しさを個性豊かに味わう。

5 年間指導計画

月	時数	題材名	題材のねらい	主な教材	主な指導内容
4	12	歌詞の内容を理解して、表情豊かに独唱曲を歌おう	姿勢や発声に意識を向けるとともに、歌詞の内容を理解してイメージをもって歌う。	アヴェマリア/早春賦/Nel cor piu non mi sento 他	・姿勢や身体の使い方、呼吸法、共鳴の様子など ・曲想と歌詞の言葉の意味、歌詞が表す情景や心情などのかかわり ・歌と伴奏それぞれの役割
5	12	ギターのエレクトリックに挑戦しよう	ギターの色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかわり理解し、表現を工夫しながら演奏する。また、弾き歌いに挑戦する。	愛のロマンス/ていんさくめ花 他	・ギターの色や奏法の特徴 ・ギターの特徴、楽曲のリズム、フレーズのまとまり、和音や和声などによって生み出される曲想を生かした表現 ・弾き歌い
6	9	我が国や郷土の音楽に親しまおう	三線や和楽器にチャレンジして音楽表現の幅を広げる。また、音色や奏法に工夫を凝らしながら楽しむ。	日本の伝統音楽、郷土の伝統芸能など	・三線、太鼓などの和楽器の特徴と基本的な奏法 ・囃子の発声の特徴を生かした表現 ・我が国や郷土の伝統音楽の特徴と文化的・歴史的背景
10	8	ポディー・パーカッションやリズムを楽しもう	ポディー・パーカッションで様々なリズムの表現活動を行い、その経験を生かしながら音楽を作ることの喜びを味わう。	ソルフェージュリズム編	・リズムの読譜や記譜の方法 ・ポディー・パーカッションによるリズム・アンサンブル
7 9	14	楽器の音色と表現上の効果を楽しまう	ピアノやギターの色や作品の特徴と表現上の効果とのかかわりを知覚し、主体的に鑑賞する。	バロック時代、印象主義の音楽	・ピアノの音色の特徴と表現上の効果とのかかわり ・言語活動を伴った批評
11 12	14	コーラスやヴォーカルアンサンブルで美しい響きを追求めよう	重唱や合唱における各声部の役割や声部間のバランスを理解するとともに、楽曲にふさわしい表現やよりよい響きを追求めることにより、アンサンブルを楽しむ。	あなたに/心の瞳 他	・各声部の役割や、声部間のバランスと調和 ・曲想と歌詞の言葉の意味や歌詞が表す情景や心情とのかかわり
1 2 3	6	オペラやミュージカルを楽しもう まとめと反省	オペラやミュージカルの表現形態や特徴を理解して、舞台作品を歌う喜びや鑑賞する楽しさを味わう。	夢やぶれて/Tonight 他	・曲種による発声の違い、言葉のリズム、旋律などの特徴 ・総合的な芸術表現における音楽的な要素とそれ以外の要素とのかかわり

6 評価方法

定期考査、実技テスト(演奏発表)、授業態度、課題提出物等を総合的に判断して行う。

評価の観点	評価方法
a 音楽への関心・意欲・態度	◇聞く(聴く)態度 ◇学習意欲(発言・積極性) ◇提出物・課題 ■定期考査(筆記試験)
b 音楽表現の工夫	◇学習活動の様子 ◇提出物(ワークシート、自己評価表) ■実技試験(独唱、独奏)
c 音楽表現の技能	◇表現活動(メロディー感・ハーモニー感・リズム その他)
d 鑑賞の能力	◇提出物(ワークシート、感想文)

平成27年度 芸術科 音楽Ⅱ シラバス

科目	単位	履修学年	区分	教科書(出版社)
音楽Ⅱ	2	3年	選択A	MOUSA 2(教育芸術社)

1 「音楽Ⅱ」の目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2 授業の内容

[表現] 表現に関して、次の事項を指導する。

(1) 歌唱

ア 声域の格調と曲種に応じた豊かな発声 イ 視唱力の充実 ウ 歌詞及び曲想の理解と個性豊かな表現
エ 重唱・合唱における豊かな表現

(2) 器楽

ア 楽器に応じた奏法の習熟 イ 視察力の充実 ウ 曲の構成及び曲想の把握と個性豊かな表現 エ 重奏・合奏における豊かな表現

現

(3) 創作

ア 楽器の特性を生かした楽曲の表現 イ 音楽を形作っている要素とそれらの働きを理解して、音楽を作ること

[鑑賞] 鑑賞に関して、次の事項を指導する。

ア 楽曲の構造 イ 音楽の歴史的背景 ウ 文化的背景に基づく我が国の伝統音楽の特徴
エ 文化的背景に基づく世界の諸民族の音楽の特徴

3 授業方法・形態

一斉授業(2時間連続)、講義、実技(一斉、グループ)、発表を中心とする。教科書を用いながら、適宜副教材等を取り入れ、生徒の理解力、

4 評価の観点

a 音楽への関心・意欲・態度	音楽を愛好し、音楽文化を尊重する態度を身に付け、音や音楽に対する興味・関心を高め、個性豊かで創造的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。
b 音楽表現の創意工夫	感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽の良さや美しさを感じ取り、個性豊かで創造的な音楽活動の工夫をする。
c 音楽表現の技能	自己のイメージを持ち、個性豊かに充実した創造的な表現をするための技能を身に付けている。
d 鑑賞の能力	多様な音楽や音楽文化に対する総合的な理解を深め、その良さや美しさを個性豊かに味わう。

5 年間指導計画

月	時数	題材名	題材のねらい	主な教材	主な指導内容
4	12	歌詞の内容を理解して、感情豊かに独唱曲を歌おう	姿勢や発声に意識を向けるとともに、歌詞の内容を理解してイメージをもって歌う。	アヴェマリア/早春賦/Nel cor piu non mi sento 他	・姿勢や身体の使い方、呼吸法、共鳴の様子など ・曲想と歌詞の言葉の意味、歌詞が表す情景や心情などのかかり ・歌と伴奏それぞれの役割
5	12	ギターのエレクトリックに挑戦しよう	ギターの色や奏法の特徴と表現上の効果とのかかりを理解し、表現を工夫しながら演奏する。また、弾き歌いに挑戦する。	愛のロマンス/ていんさぐめ花 他	・藍田の色や奏法の特徴 ・ギターの特徴、楽曲のリズム、フレーズのまとまり、和音や和声などによって生み出される曲想を生かした表現 ・弾き歌い
6	9	我が国や郷土の音楽に親しもう	三線や和楽器にチャレンジして音楽表現の幅を広げる。また、音色や奏法に工夫を凝らしながら楽しむ。	日本の伝統音楽、郷土の伝統芸能など	・三線、太鼓などの和楽器の特徴と基本的な奏法 ・謡の発声の特徴を生かした表現 ・我が国や郷土の伝統音楽の特徴と文化的・歴史的背景
10	8	ポディー・パーカッションやリズムを楽しもう	ポディー・パーカッションで様々なリズムの表現活動を行い、その経験を生かしながら音楽を作ることの喜びを味わう。	ソルフェージュリズム組	・リズムの読取りや記譜の方法 ・ポディー・パーカッションによるリズム・アンサンブル
7 9	14	楽器の音色と表現上の効果を楽しもう	ピアノやギターの色や作品の特徴と表現上の効果とのかかりを知覚し、主体的に鑑賞する。	バロック時代、印象主義の音楽	・ピアノの音色の特徴と表現上の効果とのかかり ・言語活動を伴った批評
11 12 1	14	コーラスやヴォーカルアンサンブルで美しい響きを追求めよう	重唱や合唱における各声部の役割や声部間のバランスを理解するとともに、楽曲にふさわしい表現やよりよい響きを追求めることにより、アンサンブルを楽しむ。	あなたに/心の瞳 他	・各声部の役割や、声部間のバランスと調和 ・曲想と歌詞の言葉の意味や歌詞が表す情景や心情とのかかり
1 2 3	6	オペラやミュージカルを楽しもう まとめと反省	オペラやミュージカルの表現形態や特徴を理解して、舞台作品を歌う喜びや鑑賞する楽しさを味わう。	夢やぶれて/Tonight 他	・曲種による発声の違い、言葉のリズム、旋律などの特徴 ・総合的な芸術表現における音楽的な要素とそれ以外の要素とのかかり

6 評価方法

定期考査、実技テスト(演奏発表)、授業態度、課題提出物等を総合的に判断して行う。

評価の観点	評価方法
a 音楽への関心・意欲・態度	◇聞く(聴く)態度 ◇学習意欲(発言・積極性) ◇提出物・課題 ■定期考査(筆記試験)
b 音楽表現の工夫	◇学習活動の様子 ◇提出物(ワークシート、自己評価表) ■実技試験(独唱、独奏)
c 音楽表現の技能	◇表現活動(メロディー感・ハーモニー感・リズム その他)
d 鑑賞の能力	◇提出物(ワークシート、感想文)

平成27年度 芸術科 音楽Ⅱ シラバス

科目	単位	履修学年	区分	教科書(出版社)
音楽Ⅲ	2	3年	選択B	音楽Ⅲ(教育出版)

1 「音楽Ⅲ」の目標

音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高める。

2 授業の内容

【表現】表現に関して、次の事項を指導する。

(1) 歌唱

- ア 楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に歌うこと。
- イ 様々な表現形態による歌唱の特徴を理解し、表現上の効果を生かして歌うこと。

(2) 器楽

- ア 楽曲の表現内容を総合的に理解し、表現意図をもって創造的に演奏すること。
- イ 様々な表現形態による器楽の特徴を理解し、表現上の効果を生かして演奏すること。

(3) 創作

- ア 様々な音楽材の表現効果を生かした構成を工夫して、表現意図をもって個性豊かに音楽をつくること。
- イ 様々な様式や演奏形態の特徴を理解し、表現意図をもって個性豊かに音楽をつくること。

【鑑賞】鑑賞に関して、次の事項を指導する。

- ア 音楽の構造上の特徴と美しさとのかかわりを理解して鑑賞すること。
- イ 現代の我が国及び諸外国の音楽の特徴を理解して鑑賞すること。
- ウ 音楽と他の芸術や文化とのかかわりを理解して鑑賞すること。
- エ 生活及び社会における音楽や音楽にかかわる人々の役割を理解して鑑賞すること。

3 授業方法・形態

一斉授業(2時間連続)、講義、実技(一斉、グループ)、発表を中心とする。教科書を用いながら、適宜副教材等を取り入れ、生徒の理解力、表現力を伸ばしていく。

4 評価の観点

a 音楽への関心・意欲・態度	音楽を愛好し、音楽文化を尊重する態度を身に付け、音や音楽に対する興味・関心を高め、個性豊かで創造的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。
b 音楽表現の創意工夫	感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽の良さや美しさを感じ取り、個性豊かで創造的な音楽活動の工夫をする。
c 音楽表現の技能	自己のイメージを持ち、個性豊かに充実した創造的な表現をするための技能を身に付けている。
d 鑑賞の能力	多様な音楽や音楽文化に対する総合的な理解を深め、その良さや美しさを個性豊かに味わう。

5 年間指導計画

月	時数	題材名	題材のわらい	主な教材	主な指導内容
4	10	弾き語りの魅力①	弾き語りの演奏形態の特徴を理解し、表現上の効果を生かして、個性豊かに表現する。	○ふるさと ○Stand alone ○翼 ○Oto U ○卒業写真	・姿勢や身体の使い方、呼吸法、共鳴の様子など ・曲想と歌詞の言葉の意味、歌詞が表す情景や心情などのかかわり
5	10	弾き語りの魅力② キーボード演奏	楽器の音色や奏法の特徴を生かして、楽曲にふさわしい伴奏をつくる。	○さん／どんぐりころころ／思い出のアルバム) ○残酷な天使のテーゼ ○思い出がいっぱい	・歌と伴奏それぞれの役割を知り、バランスに注意して演奏する
6	9	我が国や郷土の音楽に親しもう	三線や和楽器にチャレンジして音楽表現の幅を広げる。また、音色や奏法に工夫を凝らしながら楽しむ。	日本の伝統音楽、郷土の伝統芸能など	・三線、太鼓などの和楽器の特徴と基本的な奏法 ・腔の発声の特徴を生かした表現 ・我が国や郷土の伝統音楽の特徴と文化的・歴史的背景
10	8	ポディー・パーカッションやリズムを楽しもう	ポディー・パーカッションで様々なリズムの表現活動を行い、その経験を生かしながら音楽を作ることを喜びを味わう。	ソルフェージュリズム編	・リズムの読譜や記譜の方法 ・ポディー・パーカッションによるリズム・アンサンブル
7 9	12	楽器の音色と表現上の効果を楽しもう	ピアノやギターの音色や作品の特徴と表現上の効果とのかかわりを理解し、主体的に鑑賞する。	バロック時代、印象主義の音楽	・ピアノの音色の特徴と表現上の効果とのかかわり ・言語活動を伴った批評
11 12	14	コーラスやヴォーカルアンサンブルで美しい響きを追求しよう	重唱や合唱における各声部の役割や声部間のバランスを理解するとともに、楽曲にふさわしい表現やよりよい響きを追求することにより、アンサンブルを楽しむ。	あなたに/心の瞳 他	・各声部の役割や、声部間のバランスと調和 ・曲想と歌詞の言葉の意味や歌詞が表す情景や心情とのかかわり
1 2 3	7	オペラやミュージカルを楽しもう 音楽とかかわる仕事・著作権 まとめと反省	オペラとミュージカルの表現形態や特徴を理解し、舞台作品を歌う喜びや鑑賞する楽しさを味わう。	夢やぶれて/Tonight 他	・曲種による発声の違い、言葉のリズム、旋律などの特徴 ・総合的な芸術表現における音楽的な要素とそれ以外の要素とのかかわり

6 評価方法

定期考査、実技テスト(演奏発表)、授業態度、課題提出物等を総合的に判断して行う。

評価の観点	評価方法
a 音楽への関心・意欲・態度	◇聞く(聴く)態度 ◇学習意欲(発言・積極性) ◇提出物・課題 ■定期考査(筆記試験)
b 音楽表現の工夫	◇学習活動の様子 ◇提出物(ワークシート、自己評価表) ■実技試験(独唱、独奏)
c 音楽表現の技能	◇表現活動(メロディー感・ハーモニー感・リズム その他)
d 鑑賞の能力	◇提出物(ワークシート、感想文)